

「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト

津軽デジタル風土記は、「本州最北端の風土記」をコンセプトとして、津軽の魅力を世界に発信していくプロジェクトです。古典籍や歴史資料などには、津軽に生きた人々の多彩な思想・言説や生活世界がいきいきと記されています。国文学研究資料館が撮影した新日本古典籍総合データベースの歴史的典籍画像を活用しつつ、デジタル空間において情報を体系的に連結し、新たな地域の価値を創出します。津軽デジタル風土記の試みは、全国に先駆けたモデル事業となります。

津軽風土記



講演者

国文学研究資料館長

ロバート キャンベル 氏

Robert Campbell

国文学研究資料館長。日本文学研究者で、近世・近代日本文学が専門。特に19世紀(江戸後期～明治前半)の漢文学と、芸術、メディア、思想などに関心を寄せている。テレビのMCやニュース・コメンテーター等をつとめる一方、新聞雑誌連載やラジオなど、多くのメディアで活躍中。ニューヨーク生まれ。ハーバード大学大学院博士課程修了、文学博士。前任は東京大学大学院総合文化研究科教授。『読むことのカ―東大駒場連続講義―』(講談社)など著書多数。

ロバートキャンベル氏

講演者

弘前大学名誉教授

はせがわ

せいいち

長谷川 成一 氏

弘前大学名誉教授。日本史研究者で、近世史が専門。北日本における幕藩体制が研究テーマ。弘前藩の研究における第一人者で、青森県史、新青森市史、新編弘前市史などの編纂を行い、地方史研究の発展に大きく貢献している。秋田県由利本荘市出身。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了、文学博士。東京大学史料編纂所助手、弘前大学教授、弘前市立博物館長を歴任。平成28年に青森県文化賞受賞。『近世国家と東北大名』(吉川弘文館)など著書多数。

長谷川成一氏



文献観光資源学 「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト推進に関する覚書の締結記念講演会

津軽の魅力と文化を世界に発信!

― 古典籍・歴史資料のデジタル公開に向けて ―

日時

平成29年

7月15日

土

13:00~15:50

入場無料 申込不要

会場

弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール【先着250名】

第1部 13:00~13:50

「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト

推進に関する覚書締結式 等

問合せ

弘前大学教育学部 総務グループ内 「津軽デジタル風土記」講演会係
TEL 0172-39-3325-3326 FAX 0172-32-1478
MAIL tsugarudejitaru@hirosaki-u.ac.jp

第2部 14:00~15:50

覚書締結記念講演

森林資源の活用から見た近世津軽

―白神山地・岩木川・弘前城下―

弘前大学名誉教授

長谷川 成一 氏

『弘前藩庁日記』に刻まれた江戸のリアリティ

国文学研究資料館長

ロバート キャンベル 氏

主催

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館 弘前市教育委員会 青森県立郷土館
国立大学法人弘前大学教育学部 国立大学法人弘前大学人文社会科学部

後援

青森県文化財保護協会 青森県民俗の会 東奥日報社 陸奥新報社 FMアップルウェーブ



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館



弘前大学

文献観光資源学 「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト推進に関する覚書の締結記念講演会

津軽の魅力と文化を世界に発信!

— 古典籍・歴史資料のデジタル公開に向けて —

プログラム

第1部 「覚書」締結式 13:00~13:50

開会の挨拶

弘前大学理事(研究担当)・副学長 郡 千寿子

歴史的典籍NW事業における 文献観光資源学の取組

国文学研究資料館副館長 谷川 恵一

「津軽デジタル風土記」構築への取組

弘前大学教職大学院教授 瀧本 壽史

「津軽デジタル風土記の構築」プロジェクト 推進に関する覚書の締結

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館長

弘前市教育委員会教育長

青森県立郷土館長

国立大学法人弘前大学教育学部長

国立大学法人弘前大学人文社会科学部長

第2部 覚書締結記念講演 14:00~15:50

森林資源の活用から見た近世津軽 — 白神山地・岩木川・弘前城下 —



弘前大学名誉教授

長谷川 成一 氏

『弘前藩庁日記』に刻まれた 江戸のリアリティ



国文学研究資料館長

ロバート キャンベル 氏

閉会の挨拶 弘前大学教育学部長 戸塚 学

会場案内



駐車場は、正門からは入れませんのでご注意ください。

弘前大学創立50周年記念会館 1階
みちのくホール (弘前市文京町1番地)



- 会場の都合で先着250人とさせていただきます。当日、入場できない場合はご了承下さい。
- 駐車場は限りがありますので、できるだけ公共機関をご利用下さい。